レーザーコンパス

はじめにことばありき

島田潤一*
Junichi SHIMADA*

「'インコヒーレントレーザー'というものはできないかね。」桜井健二郎氏（現在光技術共同研究所所長）が今を去る7～8年前のある日の勤めからの帰路途上，いつもの軽い会話の中で私に御下問のあったのがこれです。

普通のひとなら聞えなかったふりをするか，その意味を意地悪く質問してのち笑いでごまかすかのどちらかでしょう。今でも信じているのですが，同氏は言葉の遊びとしておっしゃったのに過ぎないのです。しかし，えらかったのは私です。その言葉に概念を与えようと一生懸命考えました。私なりに造った概念に技術的可能性があるかどうかも考えました。そしてニーズも探りました。爾来，私はその唱導者となりました。そして，そのようなものが作られるようにもなりました。光ディスク用ピックアップ光源しかり，光通信用光源しかり。

"光大プロ"が3～4年前から進められてきております。このプロジェクトでは技術的理念を"オールオプティカル"におくこと，そしてその具現化を"光IC"の形ではかること，という意見が関係者の間では当初支配的でした。しかし，具体的計画を立案する段階に至って，これはとても無理ということになりました。どうしてもエレキの力を借りなければ物の形になりそうもないということになりました。現実との妥協の産物として北村（当時）研究開発官が付けた名前が"光・電気混在型IC"でした。この名前にはいかにも敗北感が漂っているように思えましたので，私は"オプトエレクトロニックIC"，略して"OEIC"と呼ぶことにしました。それにしても50歩100歩のような感じではありました。

ところがどうです。使っているうちにこの名前がだんだん心良く響いてくるようになりました。だんだん好きになってきました。好きになってくると，中味をもっと前向きなものにしたくなってきました。色々な人の意見を聞いてゆくうちに本当に意義のある技術に思えてきました。エレクトロニクスの歴史が真空管からトランジスタへ，さらにICへと進んできたのに対応して，光の技術もガスレーザーから半導体レーザーへときているので，きっとその先に何らかのICがある筈で，それがOEICであると思えてきました。OEICは歴史の必然の流れの中にあると思えてきました。

現在，光大プロでは中継器をイメージにとってOEICの研究開発を進めてきておりますが-この技術はワンチップコンピュータを作ろうとすると必ずや必要となるものと考え，そちらへの発展をも目指しているところです。

研究の始まり方にはいろいろあるようです。はじめにアイデアありき，とかはじめに装置ありき，とか。どうやら，はじめに言葉ありき，というものもありそうです。普通は概念が先にあってそれに名前が付くのですが，名前を考えておけば，概念はひっついてできてくるという場合もありそうです。大いに言葉をもておそぼ

* 電子技術総合研究所（〒305 茨城県新治郡桜村梅園1－1－4）
* Electrotechnical Laboratory (1-4, Umezono 1-chome, Sakura-mura Niihari-gun, Ibaraki 305)

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan

うではありませんか。

申し添えておきます。言葉が先行することは，不言実行という日本古来の美徳にもとるところがありまして，あまり良いこととして受け取られませんが，そうかといって何も言わなければ人間とかくサボリがちになるものです。大言壮語すれば，その落し前をつけるべく頑張るものです。

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan